

ログライン…愛する妻との生活を守りたい男が、眠ると夢では悲惨な中学生になってしまい、そこから逃れようとするが、やがてどちらが現実かわからなくなっていく奇妙なお話

「絶望の仮想夢」

作…えん

登場人物

稲盛和也 (29) (35) (株)ユウトリム社長

鈴木悠斗 (14) 中学生。詐欺集団の受け子

鈴木悠斗 (8) 悠斗の小学生時代

稲盛恵 (36) 和也の妻

(鈴木明美 (36) 悠斗の母親。稲盛恵同一人物)

稲盛貴子 (87) 和也の祖母

その他

詐欺集団の番頭 (40)

詐欺集団の架け子A

社員A

社員B

取調官 (女性)

刑事たち

○稲盛家・仏間

立派な仏壇に大きいが真つ白の遺影。

○イベント会場

会場名『(株)ユウトリム 新作発表会』

バックには新作スマートフォン映像。

マイクを握るのは七三に高級スーツを

着た和也(35)、

和也「このスマートフォンはご家庭にてWiFiを充電できます(笑う)。もちろん、WiFiは充電するものではありません、わかりやすく言うと、ということです。1日100MBまでの通信量をスマホに備蓄し外でもネットと繋げることができます。もうキャリアアや格安シムとの契約は不要！来年にはきつと世界中を驚かせることでしょう」
多くの拍手とカメラのフラッシュ。

○同・舞台袖

戻ってきた和也がふらつき、妻の恵(3

6)が支える、

恵「無理よ、もう3日も寝てないんだから」

和也「わかってる、わかってるけど、寝ると

変な夢を見るんだ」

恵「またその話？ 母親に怒鳴りつけられて

いる中学生になるんだっけ？」

和也「そう……、その母親が……」

恵「とにかく眠って、夢なんだから大丈夫よ」

和也M「その母親が……どうしてか君にそっ

くりなんだ。どうしてか……(倒れ込む)」

そのまま床で寝てしまう和也。

○タイトル「絶望の仮想夢」

○鈴木家

鈴木悠斗(14)を怒鳴りつけている母

親の鈴木明美(36)(≡恵と同一人物)

明美「あんたみたいなクズにやる飯ないよ、

外で遊んできな！」

○詐欺集団の部屋

カーテンに目張りされた部屋の奥で1
0代の子供たちがゲームをしている。
その中に悠斗。

番頭役(40)の声に向かって聞こえる。
番頭(声)「お前は今度はコイツになり切っ
て電話しろ、いいな、一度かかった奴は2
回目も必ず落ちる。強気でいけ、ばあちゃ
ん、オレオレって言やあイチコロだ！」

× × ×
架け子たちが次々と自分の役割の電話
をかけている姿。

× × ×
架け子Aが手を上げる、

架け子A「落ちましたあ、段取りOKです」
番頭「よおし、よくやった。2度目は簡単っ
てのが定石。それでと……。 (奥を見渡
して) 悠斗！ ゲーム始めるぞ、本物のゲ
ーム、お前の得意なヤツ」
手を止め顔をあげる悠斗。

○稲盛家・玄関前

インターホンを押すスーツ姿の悠斗、
稲盛貴子(87)(声)「はい？」

悠斗「高木法律事務所から参りました」

貴子が玄関ドアから出て来る。

貴子「……、どうぞ、お上がり下さい」

○同・中

貴子が悠斗を案内している、
貴子「息子を救う大金ですからね、お仏壇に
供えてあります」

貴子が障子を開けると、大きな仏壇が
あり、真つ白な遺影の前に分厚い封筒
が供えてある。

黙って進み、封筒を手にとる悠斗、真
つ白な遺影を見て少し気分が悪くなる。
その瞬間、聞こえる声、

刑事「カクホー！」

悠斗が刑事たちに押えられ気を失う。

○和也の家

ベッドで目覚め、目を見開いている和也。汗びっしょりで過呼吸気味。

和也「あいつ、捕まったのか……?」

混乱する和也、恵が来て、

恵「あなた！ 目、覚めたのね、大変なの」

和也「？」

恵「資金が消えてるの」

和也「どこの？」

恵「スイス銀行の分」

和也「え？ あれがないと大変なことに……」

タブレットを差し出す恵、

恵「自分で確認して」

画面は○○銀行、パスワードを入れる

和也。画面『残金 0円』

立ち上がり急いで着替える和也、

和也「とにかく会社に」

恵「でも、あなた、体が……」

和也「心配するな、きっと何かの手違いだ」

恵を抱き寄せ額にキスをする。

○会社ユウトリム・社長室

あわただしく電話をしている和也、

和也「Yes, I understand. But then I have

trouble (ガチャリと切られる) クソッ」

社員A「ベトナムの工場建設は続行してもい

いですか？」

和也「(次の電話番号を押しながらOKのサ

インを出す)……」

慌てて出て行く社員A。

社員B「工場は止めた方が……」

和也の電話には誰も出ない、

和也「今止めたら再開は年明けになる、損失

は計り知れない」

社員B「しかし、資金が消えたままだと、損

失どころか会社がなくなります」

和也「そんなことわかってる！」

○日めくりカレンダーがめくれていく

○和也の家 夜

ぐったり疲れて帰ってくる和也、ふらふらな様子、恵がそれを見て驚く、

恵「あなた、まさか、又寝てないんじゃない？」

和也「世界は24時間動いてるからな」

恵「ムチャばっかして……」

和也「俺の会社だから、(恵を見る)」

恵「お金よりあなたの体が……」

和也「寝ると、また中坊になっちまう、お前の顔した恐いお袋にボロカス言われて、詐欺の受け子やるようなガキに……」

恵「もうっ、夢じゃないの」

和也「それが、とても夢とは思えないんだ。

でも、こうなったらこっちも地獄、あっち

も地獄だけどな(悲しく笑う)」

恵「とにかく中へ、何か作るから」

和也「ああ」

○同・リビング

恵が熱いリゾットを運んでくる。

恵「待たせてごめんなさい……」

見るとソファにもたれて眠っている和也。そっとブラケットをかける恵。

○取調室

尋問を受けている悠斗、

取調官「で、いつから仲間に？」

悠斗「……、友達にいいバイトがあるって言われて……」

取調官「いいバイトがあるって言われたらなんでもやるの？」

悠斗「……そういうわけじゃ……」

取調官「お金が欲しかったの？」

悠斗「楽しかったんだ、誰も僕のことクズって言わないし……、一緒にご飯いって、カラオケ行って、ゲームして……」

取調官「あなたがお金受け取りに行った稲盛

さんってね、前にもあってるのよ、詐欺に悠斗「え？」

取調官「息子さんが本当にいるお金を騙されて振り込んじゃってね、そのせいで息子さん、ショックで亡くなったらしいわ」

悠斗「あの仏壇の？ でも……」

取調官「そう、死んだ息子さんから電話が来たら、誰でもおかしいって気付くよね。（息子の写真を見せる）この人よ、息子さん。それは夢で見る和也の顔写真だった。」

悠斗「！」

○独房 夜

布団の上の悠斗、

悠斗「あの顔……まさか（自分の顔を触る）」
疲れと眠気と吐き気で目が閉じていく。

○和也の家 朝

目覚める和也。

和也「ん？ ここ……。そうだ、寝てる場合じゃない！」

起き上がり、身支度する和也を甲斐甲斐しく世話する恵。

和也「とにかくおばあ様のところに行ってくる」

恵「スイス銀行のは、おばあ様の名義だものね……」

和也「電話しても出ないから行くしかない」

○稲盛家・玄関前

インターホンを押す和也、

ドアを開けた貴子を見て、

和也「おばあ様？（何故かひどく驚く）」

貴子が辺りを見回す。

貴子「イタズラかしら……？」

和也「おばあ様？ 俺が見えない？ それにこの人は夢の……？（混乱し意識を失う）」

○独房 朝

布団の悠斗が驚いた顔で目を醒まし、飛び起きる。

悠斗「あの人が……。おばあ様？（混乱）」

窓から朝日が差し込んでいる。

○面会室

貴子が待っていると、悠斗が刑務官に連れられてやって来て座る。

驚く悠斗に黒のスマホから一枚の写真を見せる貴子。その写真にはロン毛の

若い和也(29)が自撮りした、笑顔の

和也と悠斗(8)が写っている。

小学生の自分に驚く悠斗。

貴子「やっぱりあなたね、もしかしたらと思っただけど……」

悠斗「？」

貴子「覚えてない？この人(ズームする)」

悠斗「(和也の顔を見て)あ、」

○(回想)公園

幅広滑り台の下でランドセル姿で古い

スマホをいじっている悠斗(8)をロン

毛の和也(29)が偶然見つける。

和也「なにしてんの？」

悠斗「(チラッと見るが無視)」

和也「ゲーム？面白い？」

悠斗「これ、使えないんだ」

和也「なんで？」

悠斗「家でしか使えない」

和也「家でしか？」

悠斗「うち貧乏だから、契約できないんだ」

和也「ああ、家ならWiFiあるっていい？」

悠斗「じいちゃんがひいてる。みんなは外でも使えるのに……。僕は家だけ。だから仲間に入れてもらえない……」

和也「そっか……。でもまだ小学生だろ？」

悠斗「みーんな持つてる」

和也「そういう時代か……」

悠斗「……充電するみたいに、WiFiも充電で

きたらいいのに……」

和也「それは無理だな」

悠斗「どうして？」

和也「電気はそのスマホを動かせばいいだけ

「だけど、WiFiはネットに繋がらないとイミないから。つまりヘルツの世界？」

悠斗「じゃあ、繋ぐパワーを溜めれないの？」

和也「お前、面白いこというな。名前は？」

悠斗「ゆうと」

和也「よし、じゃ、俺が発明して会社ユウト

リムって名にしてソレ、作ってやる。丁度

考えてた俺の発想に近いよ、きつと！」

悠斗「ホント？」

和也「ああ、約束の証拠と一緒に撮ろうぜ」

悠斗と一緒に黒のスマホで自撮りする

和也。二人とも笑顔。

○(回想終り)元の面会室

悠斗(声)「あの時の……。だから夢の中の

会社、ユウトリムって。それなのに……」

○稲盛家・玄関前(続き)

意識を取り戻す和也、辺りを見回すが

誰もいない。

悠斗(声)「受け子なんかやつちまって。僕の

の夢じゃなくてお兄ちゃんの夢だったのに」

和也「夢？ 悠斗の夢？(立ち上がる)」

悠斗(声)「ごめん、お兄ちゃん……」

和也「俺はいない？ 恵は？ 会社は？ こ

こは何？(混乱の極み)俺は死んだ？」

周りの景色が歪み色が薄くなっていく。

○稲盛家・仏間

拝んでいる貴子、真っ白な遺影に和也

がスツと入るのを見て、

貴子「おかえり。4年もあの子の夢の中にい

ただね」

閉じ込められた和也が貴子を見上げて、

遺影の和也「ここどこ？ 今までの俺は？」

と聞くが貴子には聞こえない様子。

貴子「悠斗くんね、あんたのこと思い出して

ちゃんと改心するって。良かったわ。小学

生ん時は会社やめてブラブラしてたあんた

に夢をくれた。それなのに私がバカやつち

やって……。あんたは死んだってのに遺影に入ってくれないし、どうしたらいいかわからなかった。でも、結局又あの子に救われたのね……」

遺影の和也「待って、おばあ様、夢でもいい、ここから出して。恵に会いたい！」

遺影のガラスをドンドンと叩く和也。

貴子「悠斗くんね、ひどいお母さんを嫌いに
なりたくなくて、夢では奥さんにしてたら
しいよ。やっぱり子供だね、考えることが
可愛い（にっこり笑う）」

遺影の和也「え、じゃあ、恵も……？」

貴子「だからもう思い残すことなしに、成仏
しておくれ。毎日手を合わせるからね」

必死に遺影のガラスをドンドンと叩く
和也、

遺影の和也「待って！ お願い……」

その声を貴子が鳴らすリンが打ち消す。

遺影が白黒の和也の写真になる。

(完)